

花芽の分化・蕾の変異

石 沢 進

花芽の分化

ユキツバキの花芽(蕾)は、その年に伸びる枝(当年枝)が、伸びきったところ(7月下旬)に分化を開始し、夏の間、少しずつ大きくなり、秋の終わりには、内部に翌年の花の花卉、おしべ、めしべなどが出来た状態で冬を迎え、春を待つ。蕾の発育は生育地によっても異なる。上越市南葉山の山頂、中腹、山麓における蕾の大きさを1983年8月31日に比較して写真1-3に示した。山頂では葉芽とほぼ同じ大きさであるのに、山麓では、すでに冬前の長さ達した蕾もみられる。

花芽の着く位置

蕾は当年枝の上部に着く場合が多いが、詳しくは当年枝の最上の葉の近くに着く。もっと正確には、葉芽の最下位の苞に腋生する。つまり、新しく出来た翌年の葉芽に付随した状態で花芽が形成される(写真4)。蕾は当年枝に一個着くのが多いが稀に二個以上着くこともある(写真5)。

蕾の大きさ

ユキツバキの蕾は、皆同じ形をしているかどうか、群落の個体間の比較を試みた。海岸近くでは、ヤブツバキとの中間型があるので、ヤブツバキの分布とかけ離れた内陸(長野県下水内郡栄村野口)のユキツバキの蕾を1993年12月16日に調べてみた。

ユキツバキの13個体からそれぞれ蕾一つを集めて長さ幅を測定した。大きい蕾で長さ18.5mm、幅9mm、小さいもので長さ14mm、幅7.5mmであり、平均では長さ16.5mm、幅7.6mmの大きさであった。これと新潟市で採集したヤブツバキと比較してみたら長さ24.8mm、幅13.8mmで、ユキツバキより明らかに大きい(図および写真6、7参照)。

野生のユキツバキの蕾の変異を更に詳しくみたいと思っている。山で変わった蕾を着ける個体があったら御教示お願いしたい。

なお、園芸の分野、特に生花では、ツバキの蕾は先の尖らない円形のもののが喜ばれる。園芸品種には、様々な種類があり、おれぞれに蕾に特色があり、多様な形のものがある。

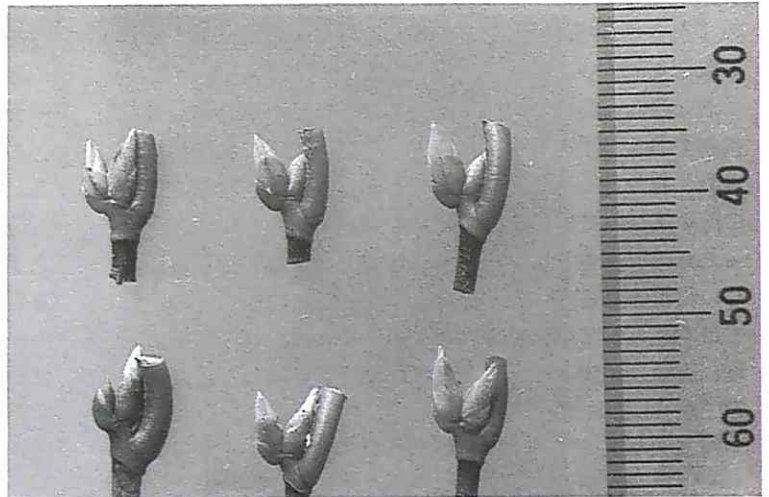


写真1 上越市南葉山の山頂における蕾の大きさ
1983 8 31

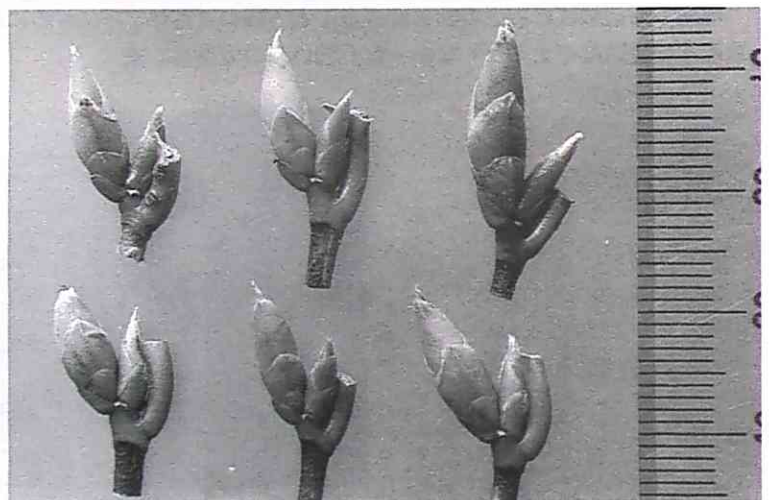


写真2 上越市南葉山の中腹における蕾の大きさ
1983 8 31

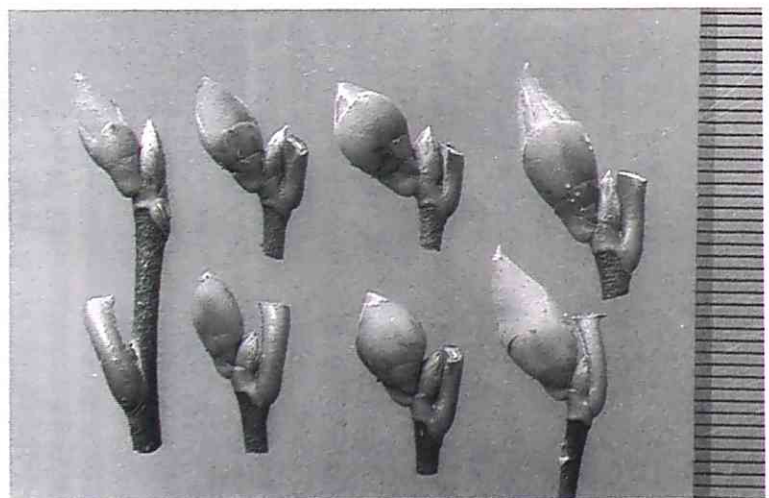
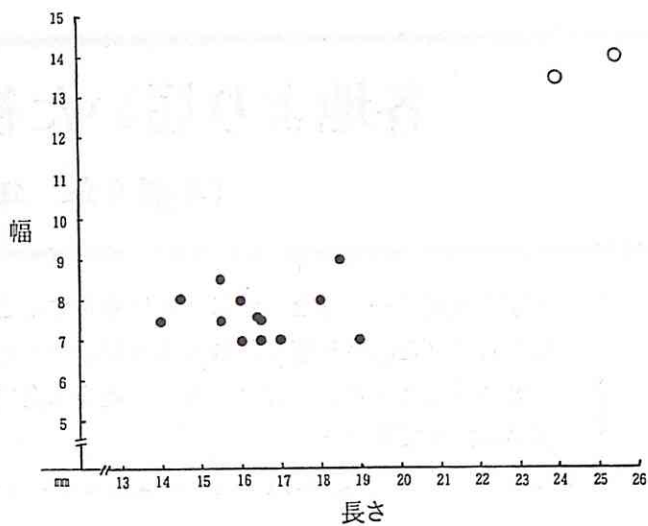


写真3 上越市南葉山の山麓における蕾の大きさ
1983 8 31



(図) 蕾の大きさ 黒点：ユキツバキ、白点：ヤブツバキ



写真4 ツバキの蕾の着き方
左：ヤブツバキ、右：ユキツバキ



写真5 当年枝に二個の蕾着生
普通一個であるが稀に二個着生

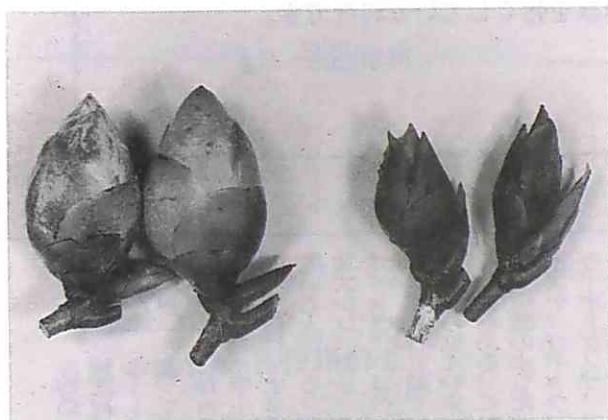


写真6 ツバキの蕾の大きさ比較
左：ヤブツバキ、右：ユキツバキ



写真7 ユキツバキの蕾の変異
中央：ヤブツバキの蕾